令和５年度「かごしま子ども調査」の結果概要

令和６年　鹿児島県

１．調査目的

「かごしま子ども未来プラン 2020」の後継計画に包含する「子どもの貧困解消対策計画」の基礎データを得るため、鹿児島県内の子どもや家庭の現在の生活・経済状態、将来の貧困に影響を与える可能性のある行動実態、子どもの貧困対策に関連する施策の利用状況等を把握することを通じ、子どもの生活支援対策を進めるに当たっての課題や施策の効果等を確認するための基礎資料を得ることを目的とする。

２．調査対象

鹿児島県内の公立中学校２年生（義務教育学校８年生を含む。）及びその保護者 14,352 組（合計 28,704 人）

３．調査方法

WEB 形式により実施。

親子別々の QR コードを付した調査票案内文を、学校を通じて生徒に配布し、生徒は学校に配備された端末（タブレット）を用いて回答。保護者は、生徒が持ち帰った調査票案内文に基づき、スマートフォン等を用いて各自で回答。

４．有効回収率

有効回収数：2,997 件（組）（回収率：20.9%）

内訳　子ども：7,536 件（回収率 52.5%）

　　保護者：3,714 件（回収率 25.9%）

５．結果の概要

・分析の結果、世帯収入の水準や親の婚姻状況によって、子どもの学習・生活・心理等、様々な面が影響を受けていることが分かった。

・特に等価世帯収入が「中央値の２分の１未満」で最も収入が低い水準の世帯や、「ひとり親世帯」が、親子ともに多くの困難に直面している。等価世帯収入が「中央値の２分の１以上中央値未満」の、いわば収入が中低位の水準の世帯でも、多様な課題が生じていた。

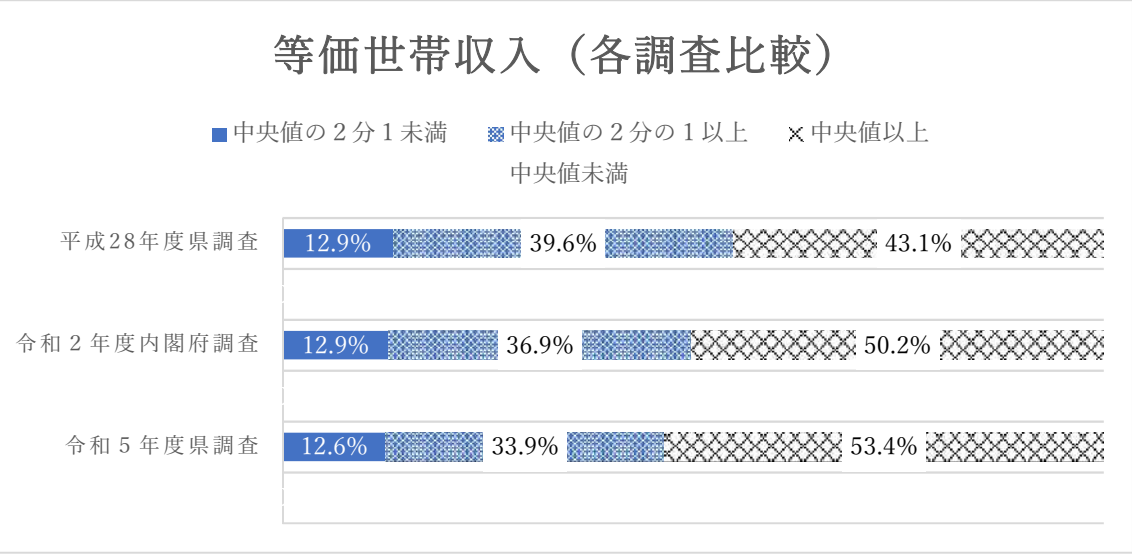
１. 保護者の生活状況

（１）生活・行動実態、課題等

●2022 年（令和 4 年）の世帯全員のおおよその年間収入について、家族の人数を踏まえて「等価世帯収入」の水準により分類した[1]。

	令和 5 年度県調査		令和 2 年度内閣府調査		平成 28 年度県調査	
中央値の 2 分の 1 未満	118.75 万円未満	12.6%	158.77 万円未満	12.9%	122 万円未満	12.9%
中央値の 2 分の 1 以上中央値未満	118.75 万円以上 237.5 万円未満	33.9%	158.77 万円以上 317.54 万円未満	36.9%	122 万円以上 244 万円未満	39.6%
中央値以上	237.5 万円以上	53.4%	317.54 万円以上	50.2%	244 万円以上	43.1%

等価世帯収入の水準が「中央値の 2 分の 1 未満」に該当するのは 12.6%、「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」に該当するのは 33.9%、「中央値以上」に該当するのは 53.4%となった。



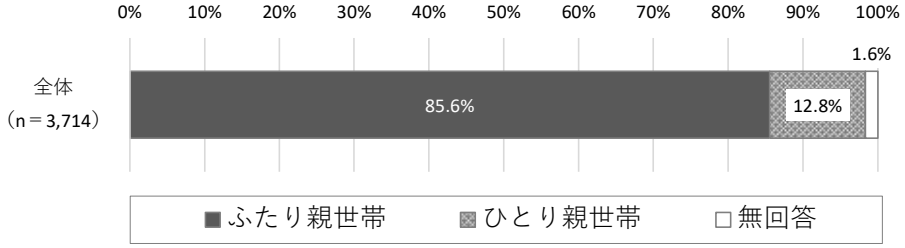
[1] ＜算出方法＞

・年間収入に関する回答の各選択肢の中央値を世帯の収入値とする（例えば、「50 万円未満」であれば 25 万、「50～100 万円未満」であれば 75 万とする。なお、「1,000 万円以上」は 1,050 万円とする）。

・上記値を同居家族の人数（単身者を含む：同居の有無を問わない）の人数の平方根をとったもので除す。

・算出した値（等価世帯収入）の中央値を求め、中央値の 2 分の 1 未満、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満、中央値以上で分類する。

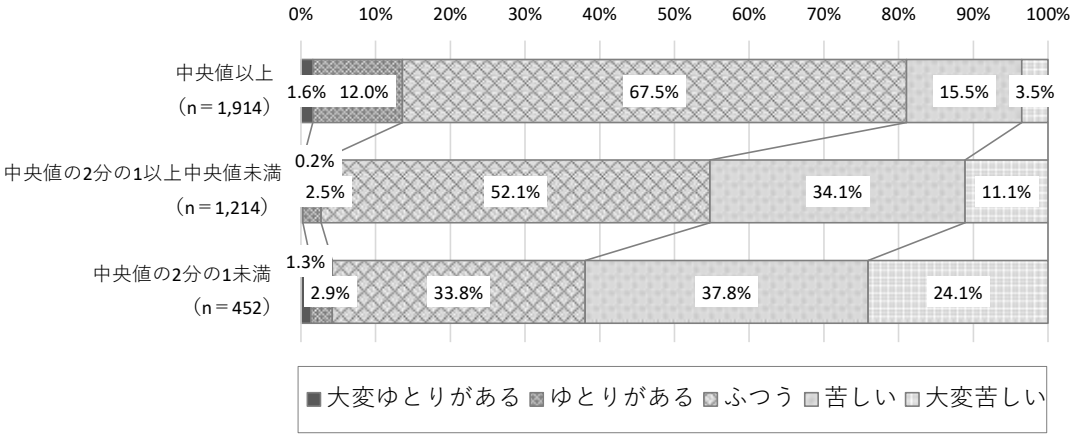
●子どもの親の婚姻状況は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が 85.6%、「離婚」が 10.9%、「死別」が 1.1%、「未婚」が 0.8%となっている。「離婚」、「死別」、「未婚」は合わせて 12.8%であり、これらは「ひとり親世帯」であるとして集計した。

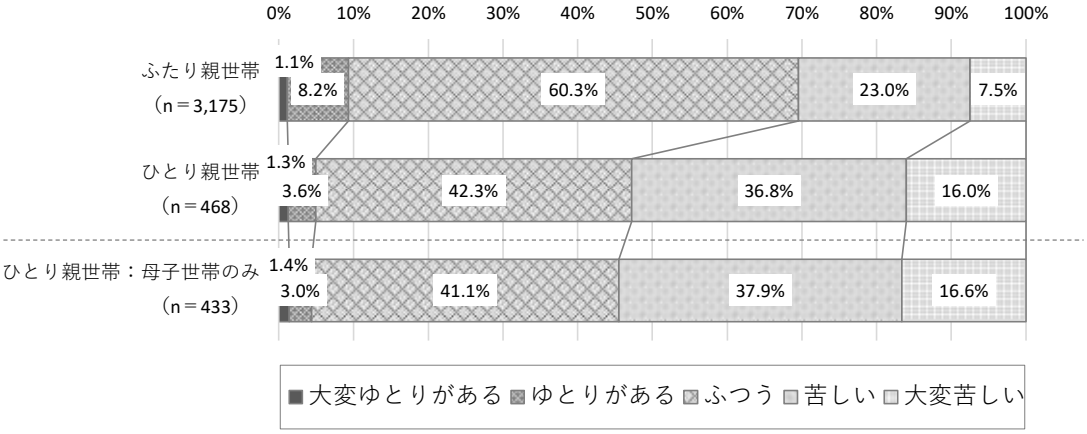


●暮らしの状況についての認識として、「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合が 33.2%と、全国の 25.3%に比べて 7.9 ポイント高い。

表　「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合

上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
暮らしの状況	33.2%	19.0%	45.2%	61.9%	30.5%	52.8%	54.5%
	(25.3%)	(9.0%)	(36.8%)	(57.1%)	(21.5%)	(51.8%)	(53.3%)





●過去１年間に必要とする「食料が買えなかった経験」や「衣服が買えなかった経験」、過去１年間で経済的な理由で「公共料金の未払い」が生じている割合は、全国に比べて高い。特に、収入水準が低い世帯やひとり親世帯で生じている割合が高い。

表　「あった」と回答した割合

上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
食料が買えなかった経験	24.1%	12.3%	32.6%	51.1%	21.7%	40.3%	41.4%
	(11.3%)	(1.9%)	(15.0%)	(37.7%)	(8.5%)	(30.3%)	(32.1%)
衣服が買えなかった経験	27.3%	14.9%	36.8%	53.7%	24.8%	45.6%	47.2%
	(16.3%)	(4.2%)	(23.0%)	(45.8%)	(13.1%)	(38.9%)	(41.0%)
公共料金の未払い	8.5%	2.8%	12.2%	23.0%	7.2%	17.0%	17.7%
	(5.7%)	(0.9%)	(7.1%)	(20.7%)	(4.3%)	(16.2%)	(16.4%)

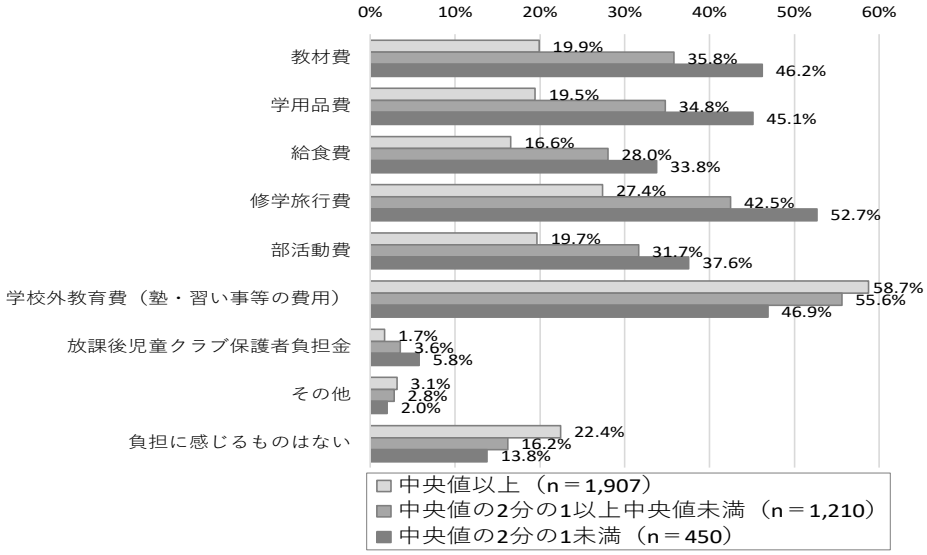
●「子どもの学習意欲に応えられなかった経験」は 32.8%、「子どもの進路に不安を抱いた経験」は 57.5%が「ある」と回答している。最も収入の水準が低い世帯やひとり親世帯の割合が特に高い。

表　経験が「ある」と回答した割合

上段：今回調査 下段：前回調査	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
子どもの学習意欲に応えられなかった経験	32.8%	22.0%	42.1%	54.4%	30.7%	48.3%	49.7%
	(34.1%)	(20.7%)	(43.5%)	(55.2%)	(32.2%)	(47.4%)	(49.6%)
子どもの進路に不安を抱いた経験	57.5%	47.1%	67.7%	75.2%	55.5%	72.0%	73.4%
	(55.8%)	(42.6%)	(66.7%)	(74.1%)	(53.9%)	(72.9%)	(76.5%)

●教育関連の支出に負担を感じるものは、「学校外教育費（塾・習い事等の費用）」の割合が最も高いが、収入の水準が低い世帯では、「修学旅行費」「教材費」「学用品費」といった学校の必要経費に対する支出に負担を感じる割合も高い。前回調査に比べると、「放課後児童クラブ保護者負担金」「その他」を除く、すべての項目で「負担に感じる」と回答している割合が高くなっている。

上段：今回調査 下段：前回調査	教材費	学用品費	給食費	修学旅行費	部活動費	学校外教育費（塾・習い事等の費用）	放課後児童クラブ負担金	その他	負担に感じるものはない	無回答
負担を感じるもの	28.8%	27.9%	22.5%	35.4%	26.0%	55.7%	2.9%	2.9%	19.1%	0.5%
	(19.1%)	(21.2%)	(16.9%)	(24.6%)	(16.0%)	(50.5%)	(7.7%)	(3.7%)	(22.8%)	-



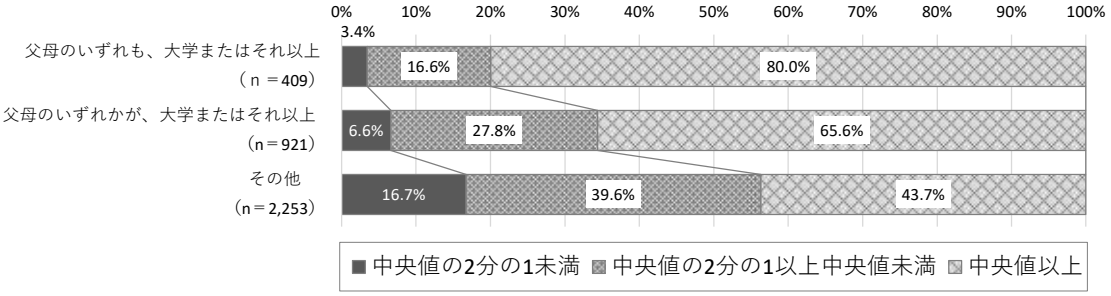
●収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、生活満足度[2]が高いと回答した割合が低い。

表　満足度の高い方（6～10）の回答割合

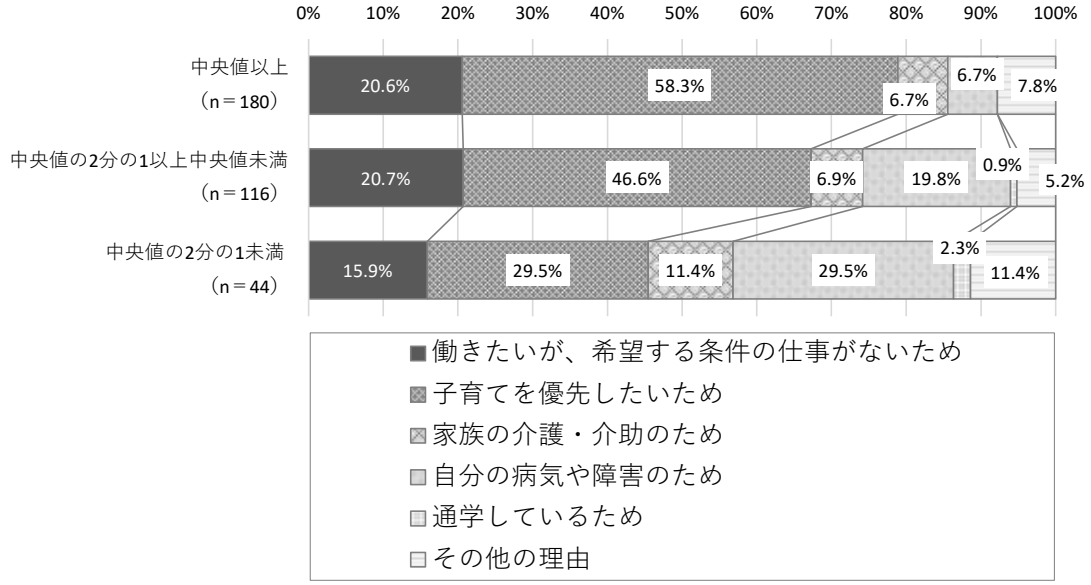
	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
生活満足度（6～10）	62.6%	74.2%	54.4%	41.2%	65.5%	49.5%	49.4%

[2] 生活満足度については、「0.まったく満足していない」から「10.十分に満足している」の 11 段階で回答を得たものを集計した。

●全国と同様に，母親・父親の学歴の違いや就労状況の違いが収入の水準と関連している。



・収入の水準が低い世帯の「母親」の就労状況は、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が高く、働いていない理由については「子育てを優先したいため」「自分の病気や障害のため」の割合が高い。



●「子どもとの関わり方」の状況の差異については、全国と同様に収入の水準や世帯の状況の違いが関連しているが、全国に比べて「子どもとの関わり」について関心度が高い傾向にある。

表　「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間のルールを決めているか」について
「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合

上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
テレビ等の視聴時間のルールを決めているか	77.1%	80.0%	73.3%	74.7%	78.4%	69.1%	69.6%
	(62.1%)	(65.7%)	(61.9%)	(52.8%)	(64.1%)	(50.9%)	(52.2%)

表　「子どもに本や新聞を読むように勧めているか」について
「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合

上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
子どもに本や新聞を読むように勧めているか	61.9%	66.2%	58.5%	55.4%	63.0%	55.8%	55.9%
	(60.3%)	(66.2%)	(56.3%)	(51.6%)	(61.8%)	(53.1%)	(54.8%)

表　「子どもが小さいころに絵本の読み聞かせをしたか」について
「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合

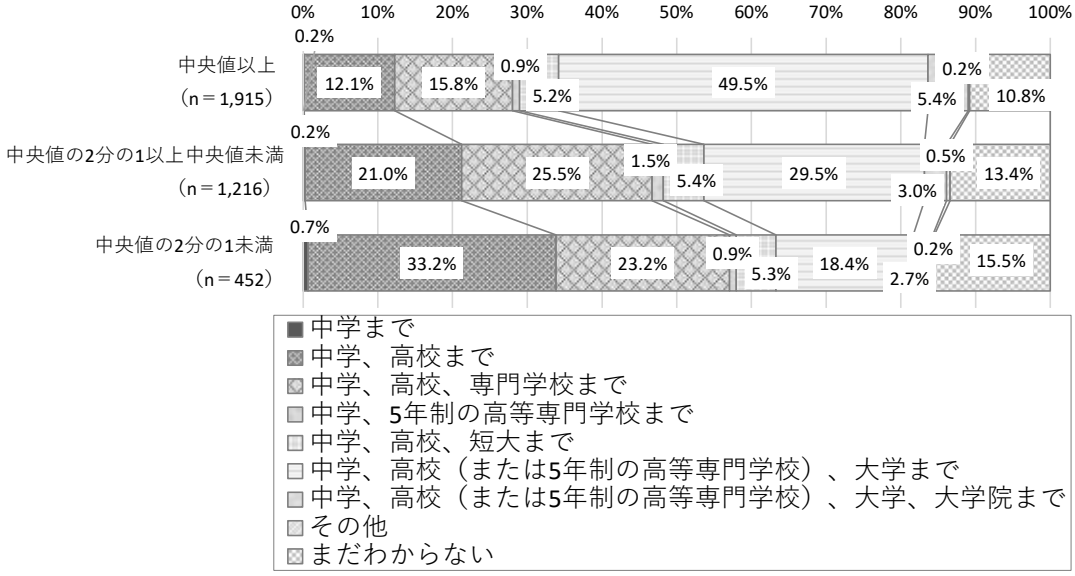
上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
子どもが小さい頃に絵本の読み聞かせをしたか	80.4%	83.7%	78.6%	72.5%	81.5%	74.8%	75.3%
	(78.2%)	(82.2%)	(76.9%)	(70.0%)	(79.3%)	(75.0%)	(76.2%)

表　「子どもから勉強や成績のことについて話をしてくれるか」について
「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合

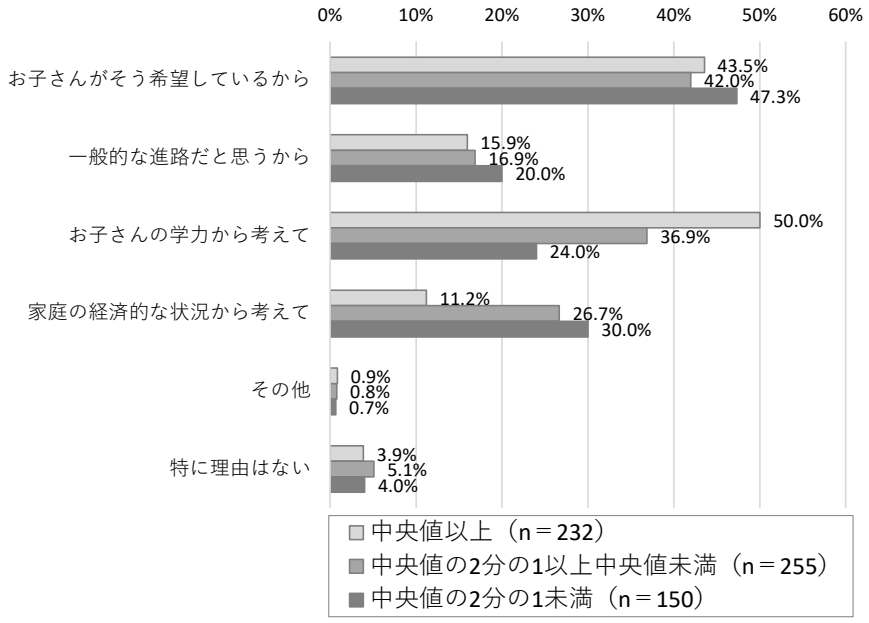
上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
子どもから勉強や成績のことについて話をしてくれるか	82.9%	85.6%	81.8%	76.8%	83.6%	79.9%	80.4%
	(78.4%)	(81.4%)	(76.6%)	(76.1%)	(79.7%)	(73.0%)	(75.2%)

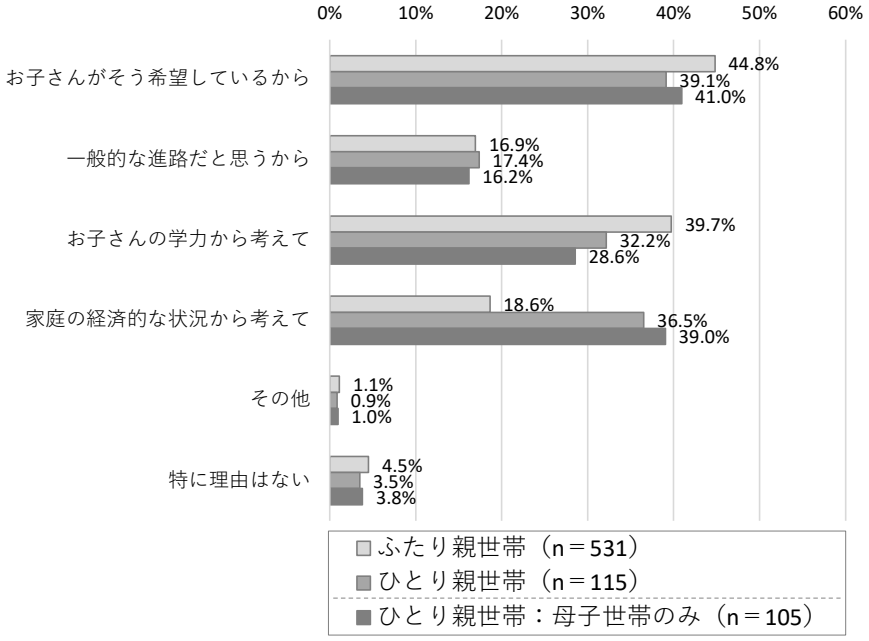
●子どもが将来どの段階まで進学するかの希望・展望について、全国に比べて、「大学またはそれ以上」に該当する割合が低い。特に、収入の水準が低い世帯では、「大学またはそれ以上」よりも「中学、高校まで」と回答した割合が高い。

上段：今回調査 中段：前回調査 下段：内閣府調査（全国）	中学・高校まで	短大・高専・専門学校まで	大学またはそれ以上	その他	また分からない	無回答
子どもの進路への希望・展望	17.9%	26.3%	42.8%	0.3%	12.6%	0.1%
	(15.1%)	(23.3%)	(51.7%)	(1.3%)	(7.6%)	(0.9%)
	(16.8%)	(19.7%)	(50.1%)	-	(12.8%)	(0.6%)



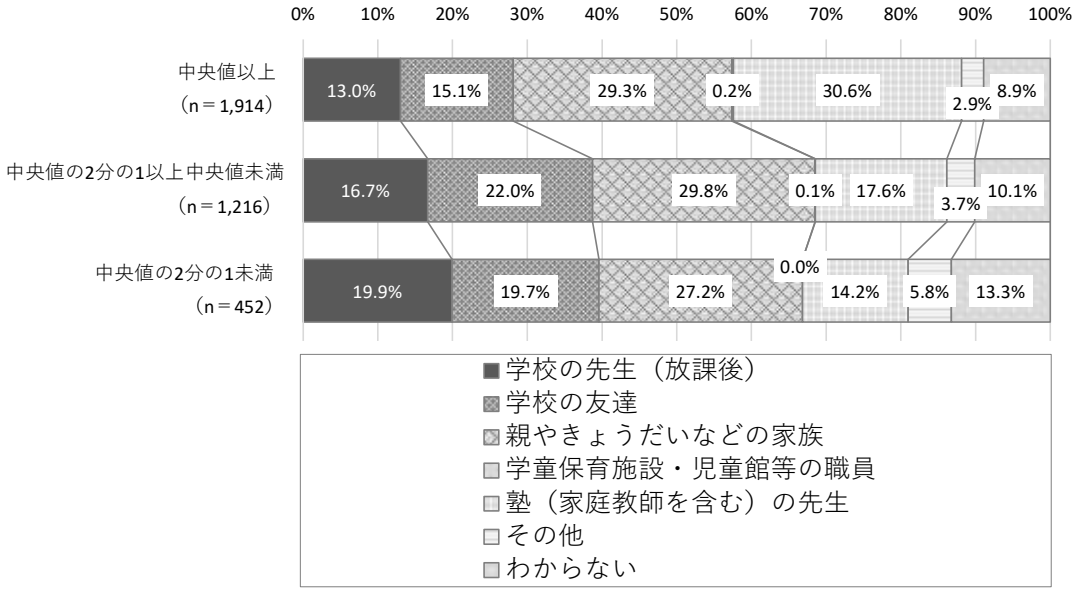
●子どもの進学段階について「高校まで」と考える理由として、収入の中央値以上の世帯では,「お子さんの学力から考えて」と回答した割合が最も高いが、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した割合が高い。

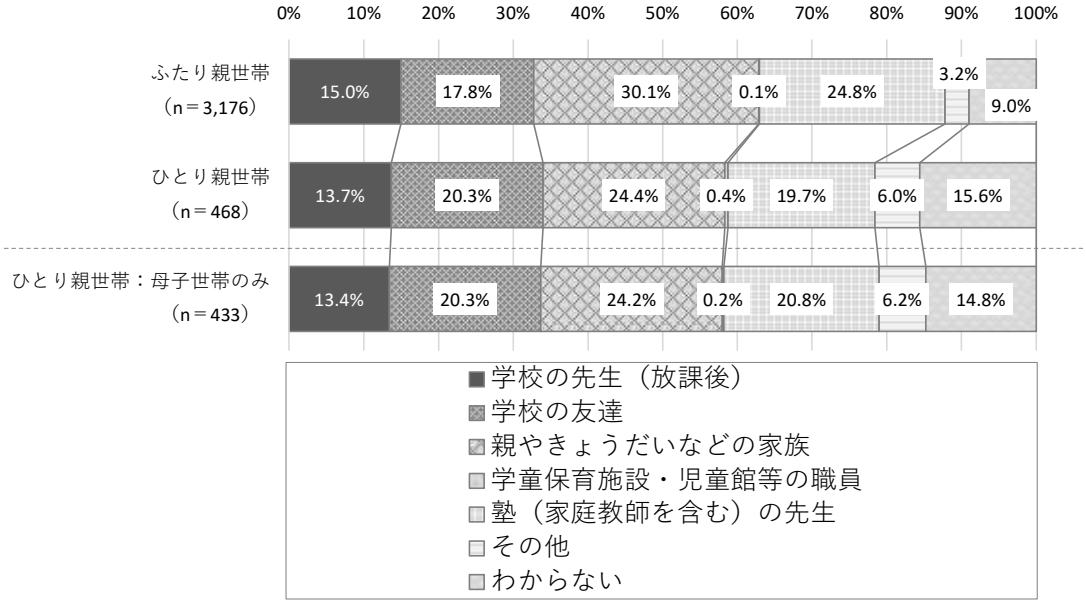




●子どもの授業以外での指導者（分からないことを教えてもらう人）は、前回調査と比べ、「塾（家庭教師を含む）の先生」と回答した割合が高く、「親やきょうだいなどの家族」の割合が低い。一方、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、塾や家庭教師等の、学校や家以外で指導を受ける機会が少ない傾向にある。

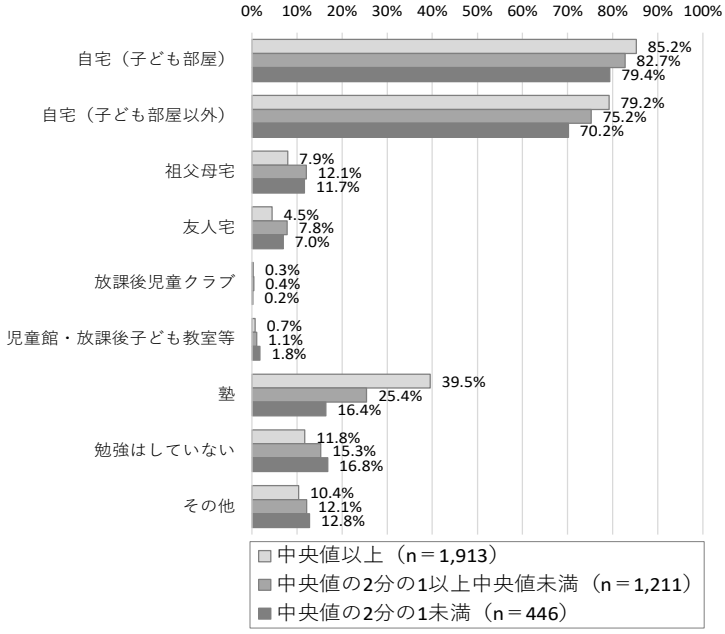
上段：今回調査 下段：前回調査	学校の先生（放課後）	学校の友達	親やきょうだいなどの家族	学童保育施設・児童館等の職員	塾（家庭教師を含む）の先生	その他	わからない	無回答
授業以外の指導者	14.9%	18.1%	29.2%	0.1%	24.0%	3.7%	9.9%	0.1%
	(13.8%)	(6.8%)	(62.5%)	(1.7%)	(6.7%)	(2.5%)	(3.9%)	(2.2%)

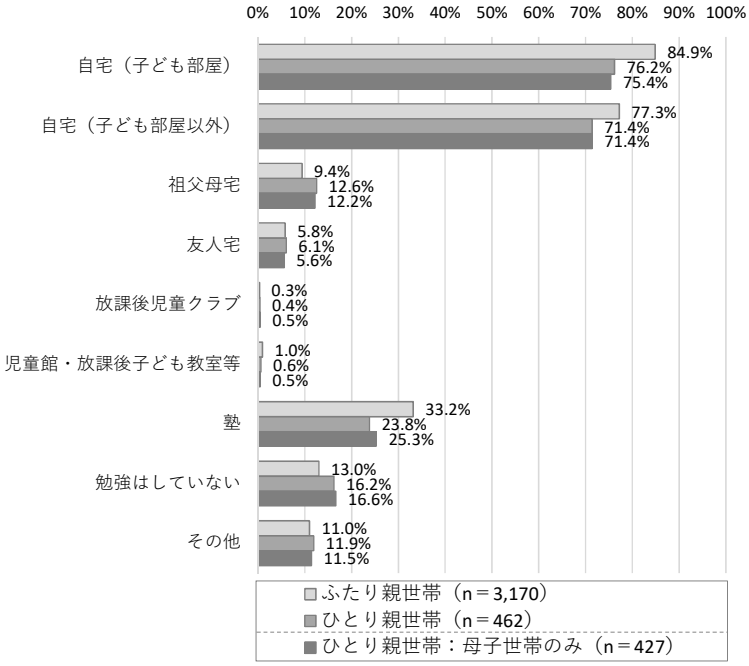




●学校以外の勉強場所は、前回調査と比べ、「自宅（子ども部屋）」や「塾」と回答した割合が高い。収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「塾」と回答した割合が低く、「勉強はしていない」の割合が高い。

上段：今回調査 下段：前回調査	自宅（子ども部屋）	自宅（子ども部屋以外）	祖父母宅	友人宅	放課後児童クラブ	児童館・放課後子ども教室等	塾	勉強はしていない	その他	無回答
学校以外の勉強場所	83.3%	76.1%	9.8%	5.9%	0.3%	1.0%	31.7%	13.4%	11.1%	0.5%
	(60.7%)	(81.6%)	(19.4%)	(8.3%)	(17.0%)	(4.5%)	(17.2%)	(3.2%)	(7.0%)	-





●全国に比べて、「子育てに関する相談」や「重要な事柄に関する相談」、「いざという時のお金の援助」について「頼れる人がいない」と回答した割合が高い。特に、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、頼れる人が「いない」と回答した割合が高い。

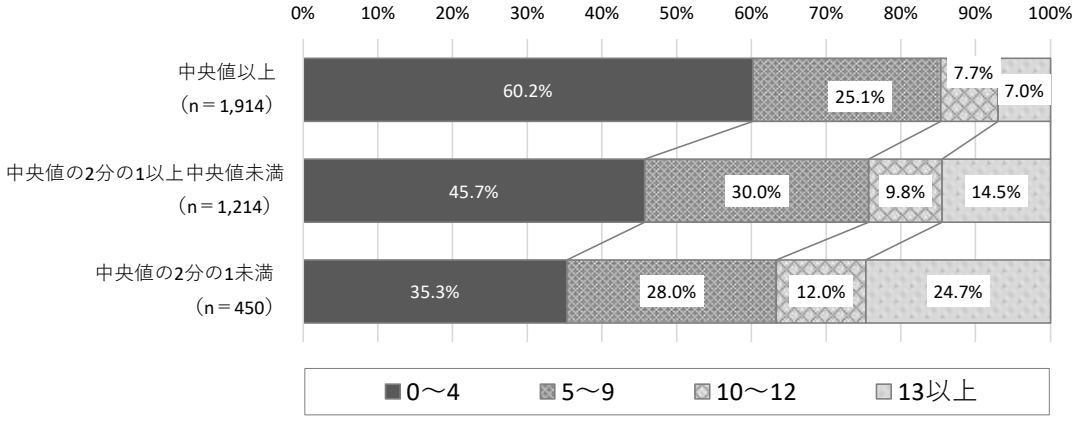
表　「頼れる人」が「いない」と回答した割合

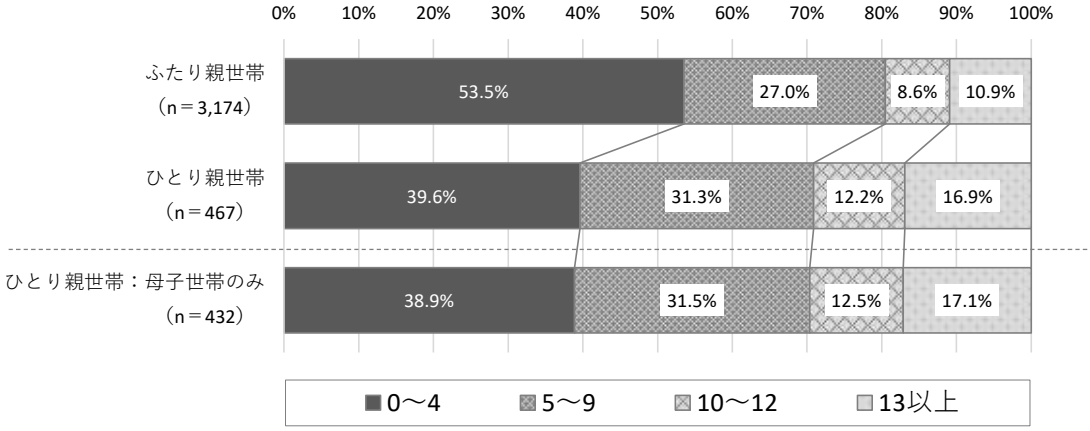
上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
子育てに関する相談	6.9%	5.1%	8.1%	11.3%	6.1%	12.8%	12.9%
	(3.9%)	(3.1%)	(4.8%)	(5.1%)	(3.3%)	(7.7%)	(7.6%)
重要な事柄に関する相談	8.6%	5.3%	11.2%	14.2%	7.7%	15.2%	15.7%
	(5.0%)	(3.6%)	(5.9%)	(8.0%)	(4.3%)	(10.1%)	(10.0%)
いざという時のお金の援助	23.8%	15.5%	30.6%	38.7%	22.2%	35.5%	35.1%
	(13.3%)	(7.7%)	(16.2%)	(27.7%)	(10.9%)	(29.3%)	(29.9%)

●保護者の心理的な状況として、「うつ・不安障害相当」とされている K6 スコア[3]「13 点以上」の割合は、全体では 11.8%であり、特に収入の水準が低い世帯やひとり親世帯の割合が高い。

表　保護者の心理的な状態（K６スコア）

	0 ～ 4	5 ～ 9	10～12	13 以上	無回答
K6 スコア	51.6%	27.4%	9.0%	11.8%	0.2%

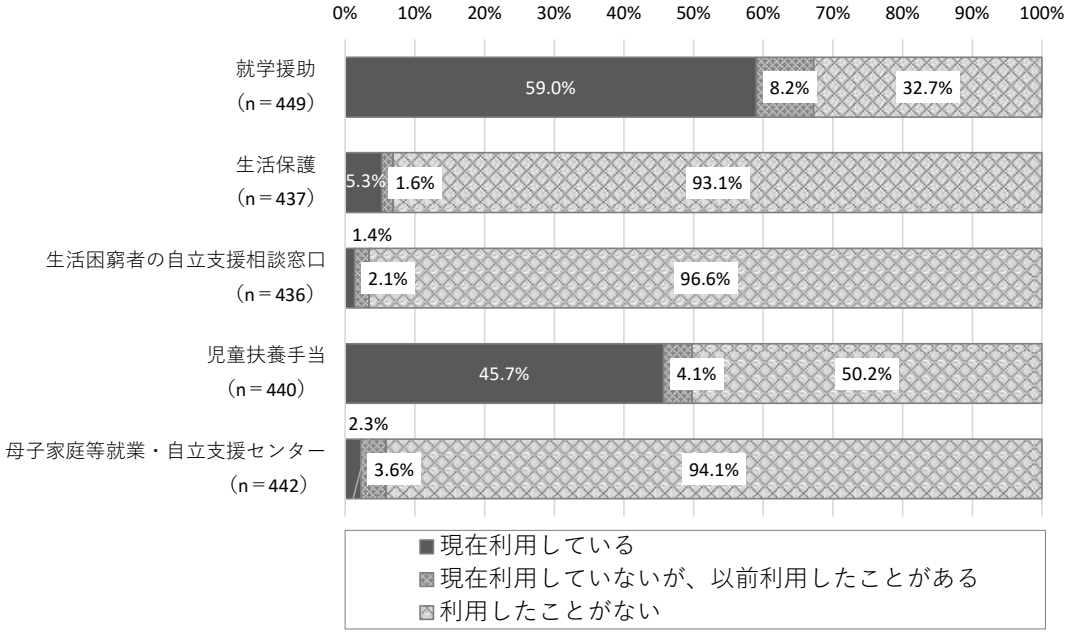




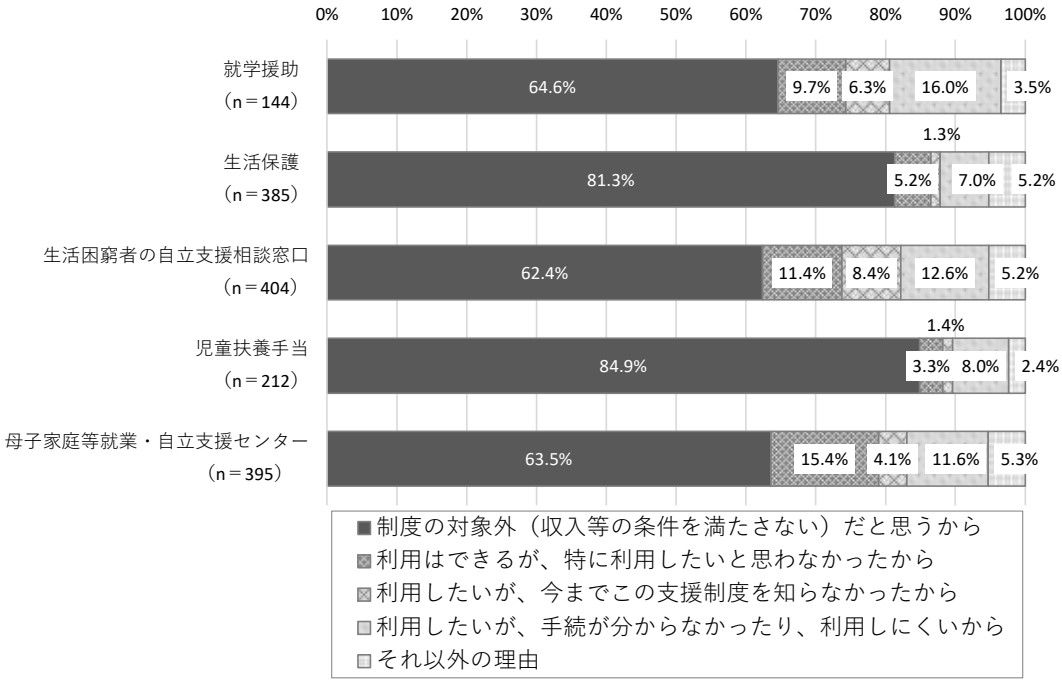
[3] 心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されている。ひとつの質問ごとに 0 点（5.まったくない）から 4 点（1.いつも）を振り、0 点から 24 点で合計を計算。点数が高くなるほど抑うつ状態が強いことを示している。

（２）支援制度の利用状況等

●支援制度の利用状況については、収入の水準が最も低い世帯では「就学援助」や「児童扶養手当」の利用割合は５割程度であり、「生活保護」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「母子家庭等就業・自立支援センター」の利用割合は１割未満となっている。



●収入の水準が最も低い世帯では、各支援制度を利用していない理由について、「就学援助」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「母子家庭等就業・自立支援センター」で、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」と「利用したいが、手続が分からなかったり、利用しにくいから」の割合が１割を超えている。



２.子どもの生活状況

（１）生活・行動実態、課題等（「貧困の連鎖」等のリスクの状況）

●収入の水準や世帯の状況の違いは、「学習の状況」の差異にも関連する。収入の水準が低い世帯やひとり親世帯ほど、学習時間が少ない状況や授業への理解度が低い傾向がみられるが、全国と比べて収入水準や世帯別による差が少ない。

表　「学校の授業以外では勉強しない」と回答した割合

上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
学校の授業では勉強しない	5.1%	2.8%	3.7%	7.5%	3.0%	8.0%	7.8%
	(4.9%)	(2.6%)	(5.8%)	(12.3%)	(4.1%)	(10.7%)	(9.6%)

表　一日の勉強時間として「まったくしない」と回答した割合

上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
学校がある日	6.0%	3.2%	5.1%	7.5%	3.8%	6.7%	6.9%
	(5.3%)	(3.4%)	(5.6%)	(12.3%)	(4.5%)	(11.0%)	(10.7%)
学校がない日	11.5%	8.3%	9.9%	13.5%	8.5%	13.6%	14.1%
	(12.6%)	(10.1%)	(13.1%)	(22.0%)	(11.6%)	(21.5%)	(21.8%)

表　クラスの中での成績が「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合

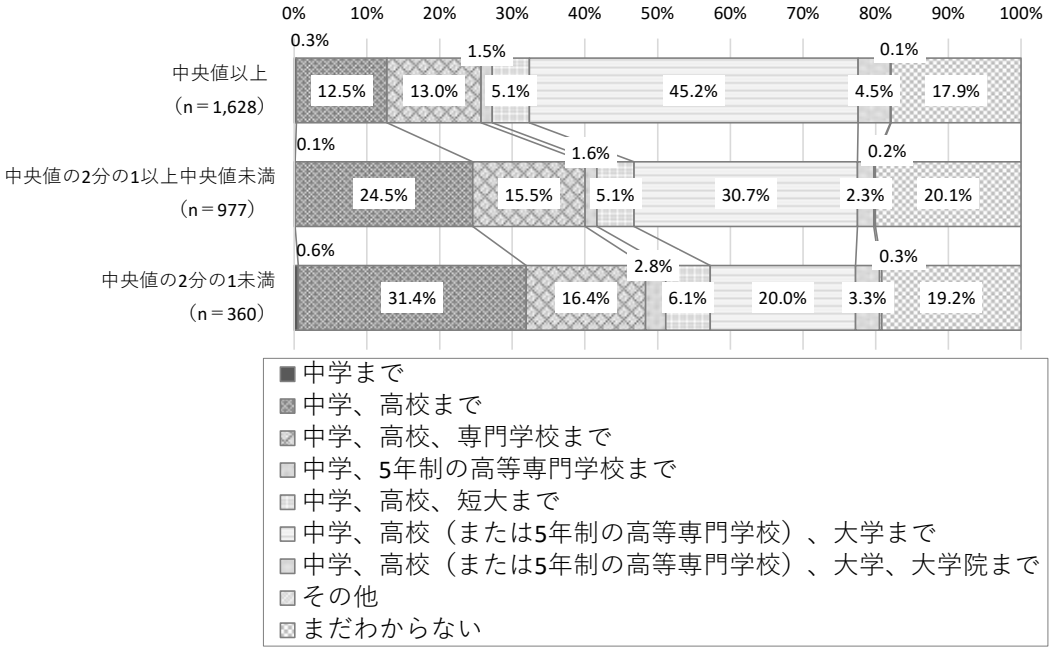
上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
クラスの中での成績	37.8%	25.8%	35.3%	43.7%	29.6%	40.5%	40.5%
	(33.0%)	(26.0%)	(36.3%)	(52.0%)	(30.7%)	(50.1%)	(49.3%)

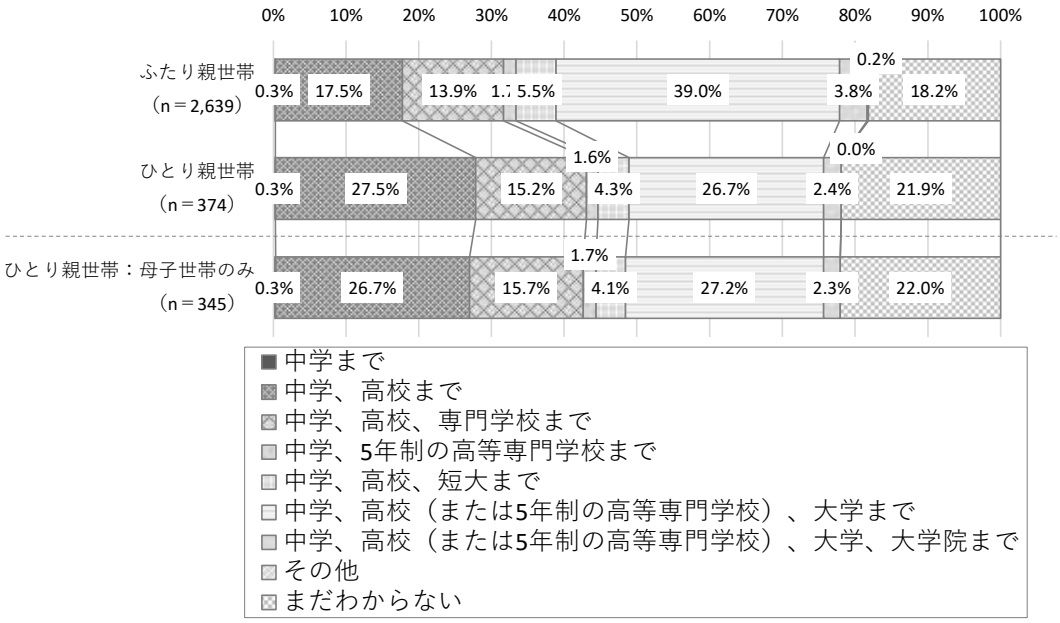
表　学校の授業の理解状況について「わからないことが多い」と「ほどんどわからない」を合わせた割合

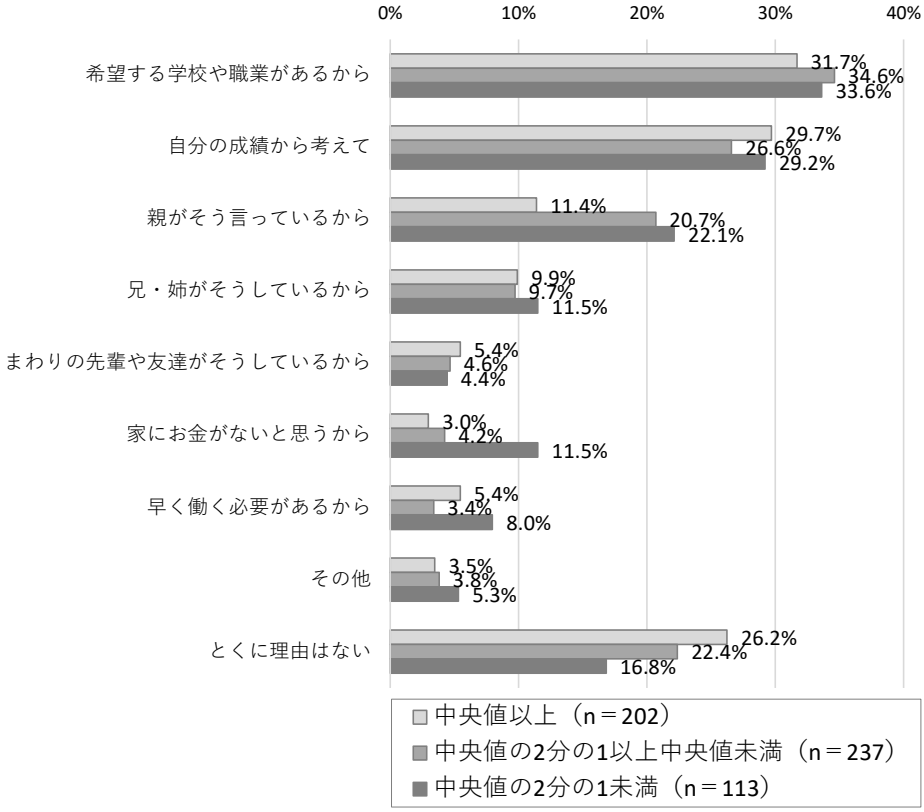
上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
学校の授業の理解状況	7.8%	5.3%	7.4%	10.9%	6.0%	10.7%	11.0%
	(11.4%)	(7.3%)	(12.4%)	(24.0%)	(9.8%)	(22.2%)	(20.9%)

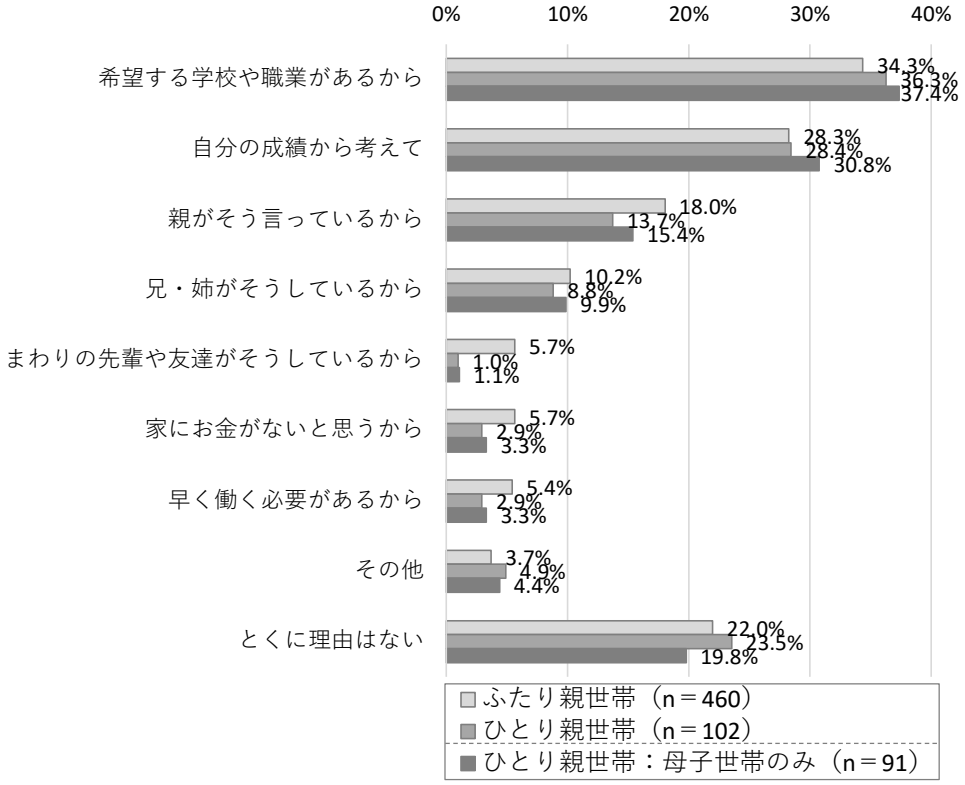
●進学したいと思う教育段階について、全国に比べて「中学、高校まで」と回答した割合が高く、「大学またはそれ以上」と回答した割合は低い。特に、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で「中学・高校まで」と回答した割合が高く、その理由として「希望する学校や職業があるから」が最も多いが、収入の水準が低い世帯では「親がそう言っているから」、「家にお金がないと思うから」と回答した割合も高い。

上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	中学まで	中学・高校まで	中学・高校・専門学校・5年制の高等専門学校・短大まで	中学・高校(または5年制の高等専門学校)・大学・大学院まで	その他	まだ分からない	無回答
進学したいと思う教育段階	0.3%	21.7%	21.5%	36.9%	0.2%	19.2%	0.2%
	(0.3%)	(14.8%)	(16.3%)	(49.7%)	-	(18.2%)	(0.7%)





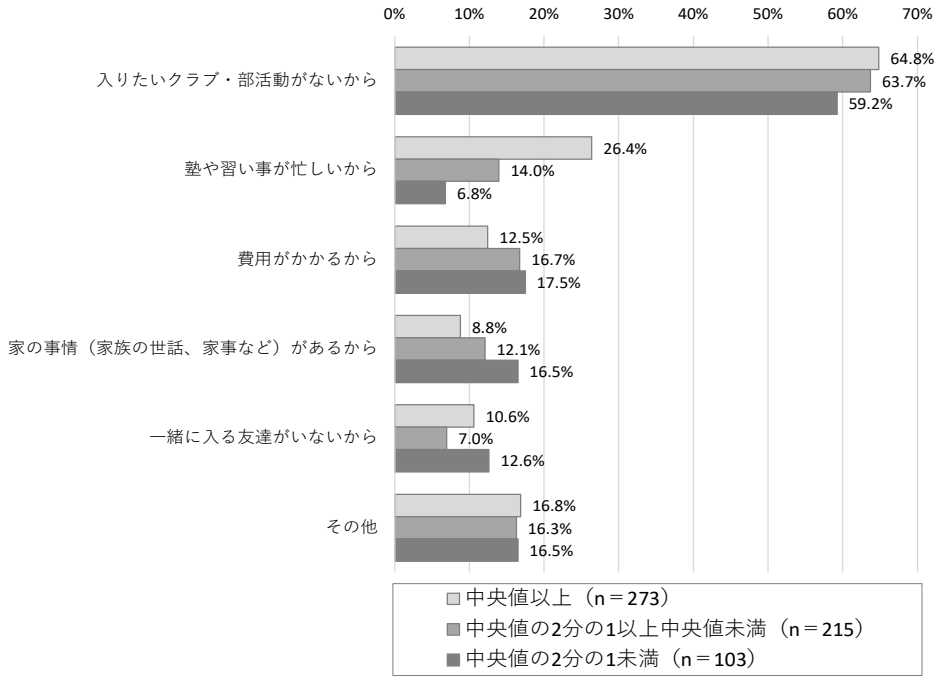

0%
10%
20%
30%
40%
希望する学校や職業があるから
31.7%
34.6%
33.6%
自分の成績から考えて
29.7%
26.6%
29.2%
親がそう言っているから
11.4%
20.7%
22.1%
兄・姉がそうしているから
9.9%
9.7%
11.5%
まわりの先輩や友達がそうしているから
5.4%
4.6%
4.4%
家にお金がないと思うから
3.0%
4.2%
11.5%
早く働く必要があるから
5.4%
3.4%
8.0%
その他
3.5%
3.8%
5.3%
とくに理由はない
26.2%
22.4%
16.8%
中央値以上（n＝202）
中央値の2分の1以上中央値未満（n＝237）
中央値の2分の1未満（n＝113）


0%
10%
20%
30%
40%
希望する学校や職業があるから
34.3%
36.3%
37.4%
自分の成績から考えて
28.3%
28.4%
30.8%
親がそう言っているから
18.0%
13.7%
15.4%
兄・姉がそうしているから
10.2%
8.8%
9.9%
まわりの先輩や友達がそうしているから
5.7%
1.0%
1.1%
家にお金がないと思うから
5.7%
2.9%
3.3%
早く働く必要があるから
5.4%
2.9%
3.3%
その他
3.7%
4.9%
4.4%
とくに理由はない
22.0%
23.5%
19.8%
ふたり親世帯（n＝460）
ひとり親世帯（n＝102）
ひとり親世帯：母子世帯のみ（n＝91）

●全国に比べて、部活動等に参加している割合が低く、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、部活動等に参加していない割合が高い。

上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
参加している	78.9%	83.1%	77.6%	71.2%	80.8%	70.9%	70.8%
	(85.1%)	(87.6%)	(86.3%)	(76.2%)	(86.9%)	(76.1%)	(77.4%)
参加していない	20.9%	16.9%	22.4%	28.8%	19.2%	29.1%	29.2%
	(14.6%)	(12.4%)	(13.7%)	(23.8%)	(13.1%)	(23.9%)	(22.6%)

・ 収入の水準が最も低い世帯において、部活動等に参加していない理由として、「費用がかかるから」「家の事情（家族の世話，家事など）があるから」の割合が高い。



●食事の状況に関して，全国に比べて、「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」について、「毎日食べる（週７日）」と回答した割合が低い。

表　「毎日食べる（週７日）」と回答した割合

上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
朝食	81.8%	87.1%	82.0%	79.5%	85.4%	78.7%	79.2%
	(82.0%)	(86.5%)	(80.5%)	(71.2%)	(83.9%)	(70.2%)	(71.2%)
夏休みや冬休みなどの期間の昼食	81.7%	87.1%	81.1%	80.5%	85.3%	78.9%	78.9%
	(89.1%)	(91.6%)	(89.4%)	(82.4%)	(90.5%)	(83.2%)	(83.2%)

●相談できると思う相手に関して、全国に比べて「親」と回答した割合が高く、「だれにも相談できない、相談したくない」との回答は無かった。

上段： 今回調査 下段： 内閣府調査 （全国）	親	きょうだい	祖父母など	学校の先生	学校の友達	学校外の友達	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど	その他の大人（塾・習い事の先生、地域の人など）	ネットで知り合った人	だれにも相談できない、相談したくない	無回答
相談相手	71.3%	24.0%	12.3%	21.0%	68.6%	17.1%	2.8%	3.6%	5.1%	0.0%	1.3%
	(65.1%)	(21.0%)	(11.6%)	(23.4%)	(67.3%)	(13.9%)	(4.1%)	(6.8%)	(5.0%)	(8.9%)	(1.0%)

●子どもの心理的な状況に関して、全国と比べると、「情緒の問題」や「仲間関係の問題」のスコア[4]がやや高い。

表　該当項目一覧表

	（1） 情緒	（2） 仲間関係	（3） 向社会性
a）私は、他人に対して親切にするようにしている。 私は、他人の気持ちをよく考える。			○
b）私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。	○		
c）私は、他の子供たちと、よく分け合う（食べ物・ゲーム・ペンなど）。			○
d）私は、たいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。		○	
e）私は、心配事が多く、いつも不安だ。	○		
f）私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。			○
g）私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。		○	
h）私は、落ち込んでしずんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある。	○		
i）私は、同じくらいの年齢の子供からは、だいたいは好かれている。		○	
j）私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。	○		
k）私は、年下の子供たちに対してやさしくしている。			○
l）私は、他の子供から、いじめられたり、からかわれたりする。		○	
m）私は、自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生・他の子供たちなど）。			○
n）私は、他の子供たちより、大人といる方がうまくいく。		○	
o）私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。	○		

[4] 簡便なスクリーニング式質問票で、適応と精神的健康の状態を包括的に評価できることから、多くの国で採用されている。採点方法は、ひとつの質問ごとに0点（あてはまらない）から2点（あてはまる）を振り、0点から10点で合計を計算。点数が高くなるほど問題性が高いと考えられる。

表　スコア

上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
情緒の問題	3.56	3.51	3.70	3.86	3.58	3.84	3.80
	(3.40)	(3.23)	(3.43)	(3.84)	(3.36)	(3.71)	(3.76)
仲間関係の問題	2.19	2.13	2.16	2.44	2.15	2.37	2.35
	(2.06)	(1.90)	(2.15)	(2.38)	(2.04)	(2.17)	(2.17)
向社会性の問題	5.88	5.88	5.90	5.90	5.90	5.84	5.85
	(6.05)	(6.08)	(6.02)	(5.96)	(6.08)	(5.90)	(5.89)

●逆境体験の経験の有無について、全国に比べ、「あてはまる」と回答した割合が高い。

表　調査した項目

a．一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある
b．一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある
c．家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある
d．必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じることがある
e．両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある
f．一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある
g．一緒に住んでいる人に、お酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる
h．一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる

比較表：逆境体験

上段：今回調査 下段：内閣府調査（全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
ひとつもあてはまらない（０個）	71.3％	81.4%	72.8%	54.5%	82.0%	28.2%	28.1%
	(75.5%)	(84.9%)	(77.6%)	(50.2%)	(85.6%)	(24.7%)	(23.5%)
１～２個あてはまる	22.8%	16.6%	22.8%	41.0%	15.3%	65.9%	65.7%
	(18.9%)	(12.6%)	(19.9%)	(44.8%)	(12.1%)	(68.8%)	(70.1%)
３～４個あてはまる	3.3%	1.8%	3.7%	4.2%	2.4%	5.2%	5.3%
	(2.3%)	(2.2%)	(2.2%)	(3.8%)	(2.0%)	(5.2%)	(5.3%)
５～７個あてはまる	0.6%	0.2%	0.6%	0.3%	0.2%	0.9%	0.9%
	(0.4%)	(0.4%)	(0.1%)	(1.3%)	(0.3%)	(1.2%)	(1.1%)
すべてあてはまる（８個）	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	(0.0%)	(0.0%)	(0.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)

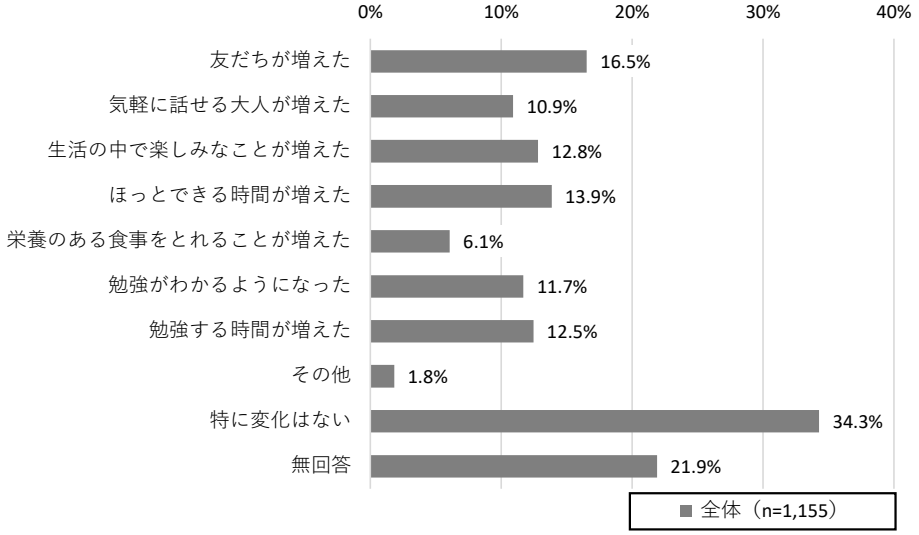
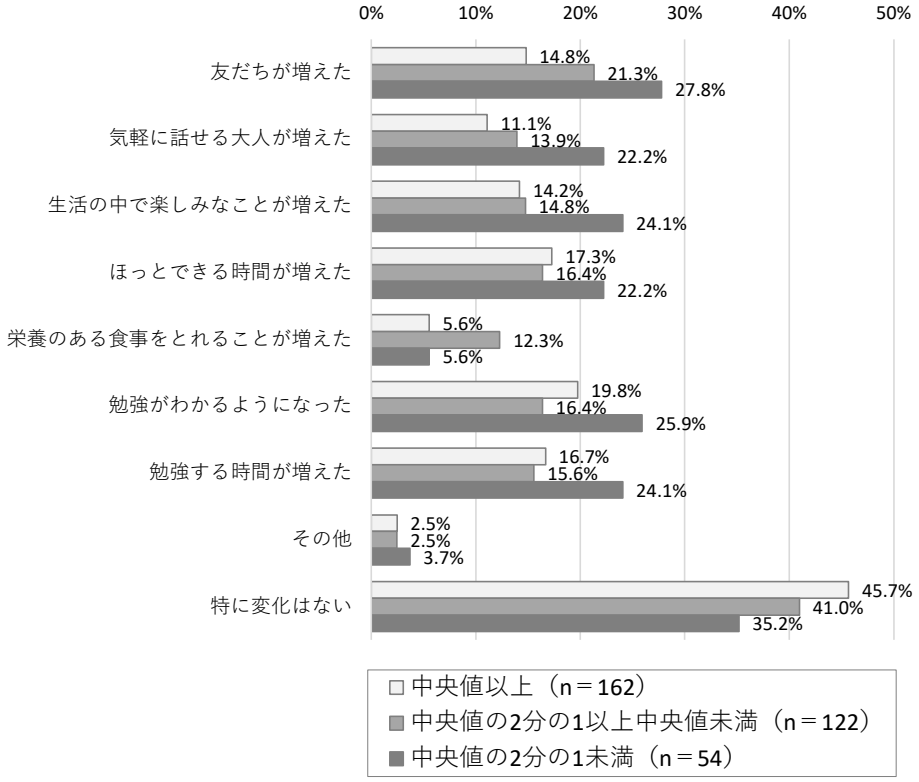
（２）支援制度の利用状況等

●支援制度・居場所等の利用状況について、全国に比べて「利用したことがある」の割合が高い。一方、収入の水準が最も低い世帯やひとり親世帯では、「勉強を無料でみてくれる場所」や「何でも相談できる場所（電話やネットの相談を含む。）」を「利用したことがある」の割合が低い。

上段：今回調査 下段：内閣府調査 （全国）	利用したことがある	あれば利用したいと思う	今後も利用したいと思わない	今後利用したいかどうか分からない	無回答
ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）	9.9%	26.9%	22.9%	39.8%	0.5%
	(2.8%)	(20.1%)	(40.7%)	(33.6%)	(2.8%)
勉強を無料でみてくれる場所	5.5%	32.5%	23.9%	37.6%	0.5%
	(4.1%)	(37.7%)	(28.8%)	(26.8%)	(2.6%)
何でも相談できる場所（電話やネットの相談を含む。）	3.0%	14.8%	33.7%	48.0%	0.6%
	(2.7%)	(15.9%)	(39.7%)	(39.1%)	(2.6%)

表　「利用したことがある」と回答した割合

上段：今回調査 下段：内閣府調査 （全国）	全体	等価世帯収入の水準別			世帯の状況別		
		中央値以上	中央値の２分の１以上中央値未満	中央値の２分の１未満	ふたり親世帯	ひとり親世帯	うち母子世帯
ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）	9.9%	7.4%	10.0%	10.0%	8.5%	9.1%	9.5%
	(2.8%)	(2.3%)	(3.6%)	(3.4%)	(2.4%)	(6.7%)	(7.0%)
勉強を無料でみてくれる場所	5.5%	5.5%	5.3%	8.9%	5.7%	6.1%	6.1%
	(4.1%)	(3.0%)	(4.3%)	(9.5%)	(3.4%)	(9.8%)	(10.8%)
何でも相談できる場所（電話やネットの相談を含む。）	3.0%	2.6%	3.4%	3.1%	2.9%	2.9%	3.2%
	(2.7%)	(1.9%)	(3.3%)	(4.6%)	(2.3%)	(6.1%)	(5.6%)

●全国と同様、支援制度・居場所等の利用によって、「友だちが増えた」「ほっとできる時間が増えた」などの変化が認識されている。特に、収入の水準が低い世帯で顕著である。

上段： 今回調査 下段： 内閣府調査 （全国）	友達が増えた	気軽に話せる大人が増えた	生活の中で楽しみなことが増えた	ほっとできる時間が増えた	栄養のある食事をとれることが増えた	勉強が分かるようになった	勉強する時間が増えた	その他	特に変化はない	無回答
利用による変化	16.5%	10.9%	12.8%	13.9%	6.1%	11.7%	12.5%	1.8%	34.3%	21.9%
	(21.5%)	(15.9%)	(29.9%)	(26.3%)	(5.7%)	(15.0%)	(21.5%)	(7.3%)	(33.8%)	(5.7%)